

各位

スパークス・サーベイ ―世相をスパッと一刀両断― 夫婦のマネー事情と夫婦円満投資に関する調査 2023

夫婦の預貯金額は平均 753 万円、昨年調査から 144 万円の大幅減少
へそくり額の平均は夫 152 万円、妻 309 万円、妻では昨年調査から 76 万円の大幅増加
「値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まった」45%、昨年調査から 4 ポイント上昇
「夫婦で一緒に考えて行う投資に新しい NISA を利用したい」43%、30 代では 52%
夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦 1 位「ヒロミさん・松本伊代さん」2 位「杉浦太陽さん・辻希美さん」

スパークス・アセット・マネジメント株式会社 (<https://www.sparx.co.jp/>) (東京都港区。代表取締役社長 阿部修平) は、夫婦の金銭事情や投資に対する意識を明らかにするため、2023年10月12日～10月13日の2日間、全国の20歳以上の既婚(配偶者がいる)男女を対象に、「夫婦のマネー事情と夫婦円満投資に関する調査2023」をインターネットリサーチにより実施し、1,000名の有効サンプルを集計しました。なお本レポートは、サンプル調査という性質上、実態を全て反映したものではありません。また、特定の投資商品や個別銘柄の取引を勧誘する目的で作成したものではありません。(調査協力会社: ネットエイジア株式会社)

▼ 夫婦のマネー事情 ……p.3-10

- 夫婦の貯金管理の主導権は? 「妻が主導」46%、「夫が主導」24%
- 夫婦の預貯金額は平均753万円、昨年調査から144万円の大幅減少
- おこづかい額の決定権 「妻のほうが強い」32%、「夫のほうが強い」23%
- おこづかい額の平均は30,831円/月、昨年調査から2,395円減少
- 「毎月のおこづかい額に満足している」43%、60代以上女性では52%
- 「へそくりをしている」夫の45%、妻の48%
- へそくり額の平均は夫152万円、妻309万円、妻では昨年調査から76万円の大幅増加
- 「夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている」73%
- 夫婦の老後に備えるために確保できている金額 平均62,507円/月、昨年調査から12,594円の大幅増加
- 「妻の給料を把握していない」夫の49%、「妻の娯楽費・交際費を把握していない」夫の69%
- 「お金関連で配偶者に不満を持っている」51%、40代女性では64%
- お金関連の配偶者への不満 TOP5は「無駄遣いが多い」「節約しない」「無計画にお金を使う」「収入が少ない」「貯蓄に協力しない」
- 「お金が原因で年1回以上夫婦喧嘩をしている」38%、お金が原因の夫婦喧嘩の回数は平均2.5回/年
- 「お金が原因で離婚危機を迎えたことがある」25%、お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦では55%

▼ 今年の社会情勢と夫婦のマネー事情 ……p.11-16

- 「夫婦の家計状況が昨年より悪くなった」27%、50代では32%
- 「夫婦の老後資金の準備状況が昨年より悪くなった」21%、40代と60代以上では25%
- 夫婦の家計状況が昨年と比べて良くなった理由 「家計を見直した」「投資信託やNISAを始めた」「少しずつ給与が上がっている」
- 夫婦の家計状況が昨年と比べて悪くなった理由 「外出が増えて支出が増えた」「日常に使う食品やガソリンなどが値上がりした」



- 夫婦の“今年の家計”を表す漢字「苦」がダントツ、選んだ理由「給料は上がらず物価高で苦しいから」
- 「円安によって生活不安が大きくなった」62%
「不安定な世界情勢によって生活不安が大きくなった」65%
- 「不安定な世界情勢によって資産運用の重要性を実感した」60%、30代では67%
- 「値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まった」45%、昨年調査から4ポイント上昇
- 「値上げラッシュによって夫婦仲が悪くなった」25%、昨年調査から9ポイント上昇

▼ 夫婦の投資事情 ……………p.17-20

- 「夫婦で一緒に考えて投資をしている」32%、「配偶者に内緒で投資をしている」21%
- 夫婦で一緒に考えて投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」3位「外国株式」
- 配偶者に内緒で投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」3位「外貨」
- 「老後の生活資金のために投資をしたい」44%、50代男性では59%
- 老後のために投資したい資産 1位「日本株式」2位「投資信託」3位「外国株式」
- “新しいNISA”の認知率は60%、50代男性では76%
- 「夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したい」43%、30代では52%

▼ 夫婦仲と夫婦円満投資 ……………p.21-24

- 「夫婦の仲が昨年より良くなった」17%、20代では33%、60代以上では6%
- 夫婦円満でいるために行っていること 1位「多少のことは我慢する」2位「話を聞く」、
20代男性では「話を聞く」と「記念日を祝う」、60代以上男性では「互いの健康を気遣う」、
20代・30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」が1位に
- 夫婦円満でいるために配偶者に行ってほしいこと 1位「家事をする」2位「感謝の気持ちを言葉で伝える」、
50代男性では「隠し事をしない」「互いの意思・価値観を尊重する」、
30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」「話を聞く」、40代女性では「お金を稼ぐ」が1位に
- 夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦 1位「ヒロミさん・松本伊代さん」2位「杉浦太陽さん・辻希美さん」
- 夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦 1位「フグ田マスオ・フグ田サザエ」2位「野原ひろし・野原みさえ」

◆◆報道関係の皆様へ◆◆

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「スパークス・アセット・マネジメント調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

▼夫婦のマネー事情

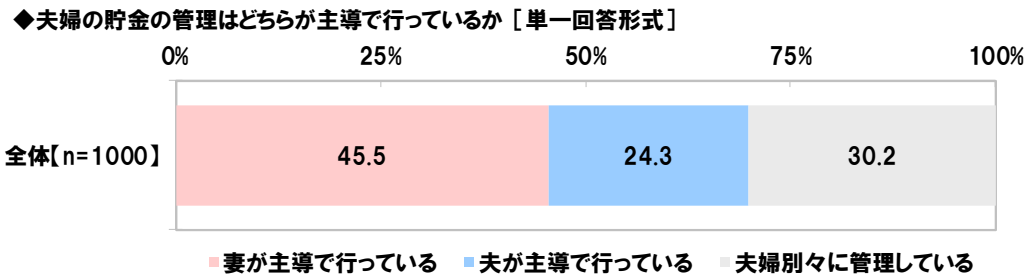
◆夫婦の貯金管理の主導権は？「妻が主導」46%、「夫が主導」24%

◆夫婦の預貯金額は平均 753 万円、昨年調査から 144 万円の大減少

全国の20歳以上の既婚(配偶者がいる)男女1,000名(全回答者)に、夫婦のマネー事情について質問しました。

はじめに、全回答者(1,000名)に、夫婦の貯金の管理はどちらが主導で行っているか聞いたところ、「妻が主導で行っている」は45.5%、「夫が主導で行っている」は24.3%、「夫婦別々に管理している」は30.2%となりました。妻が主導権を握って貯金を管理しているという夫婦が多いようです。【図1】

【図1】

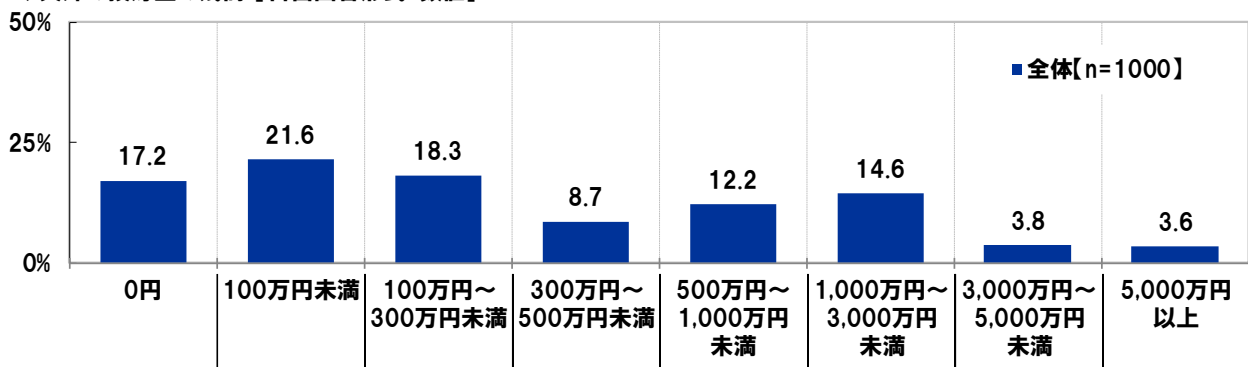


夫婦の預貯金の残高を聞いたところ、「100万円未満」(21.6%)や「100万円～300万円未満」(18.3%)、「1,000万円～3,000万円未満」(14.6%)などに回答が分かれ、平均は753万円でした。

昨年の調査結果と比較すると、夫婦の預貯金の残高の平均は2022年897万円→2023年753万円と、144万円減少しました。新型コロナの5類移行に伴う外出機会の増加や、物価高による生活コストの上昇で、家計が圧迫され夫婦の貯蓄が減少したのではないのでしょうか。年代別にみると、50代では288万円減少(2022年1,196万円→2023年908万円)、60代以上では268万円減少(2022年1,789万円→2023年1,521万円)と、他の年代と比べて減少幅が大きくなりました。【図2】【図3】

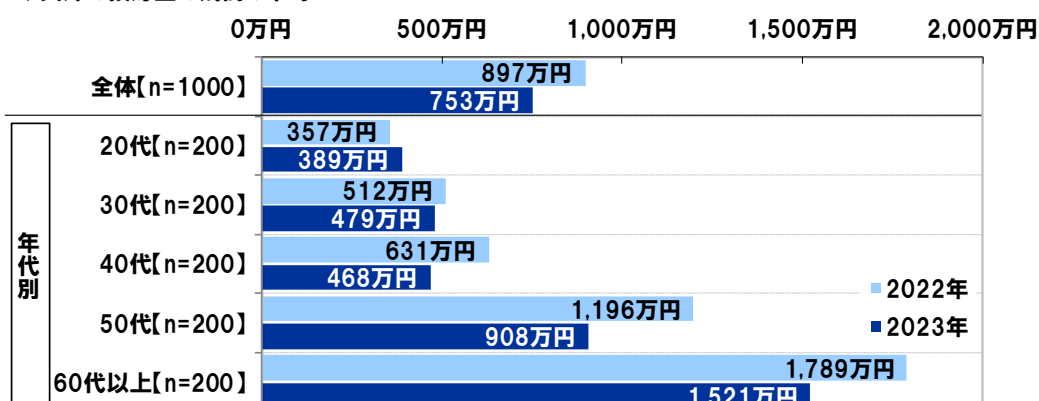
【図2】

◆夫婦の預貯金の残高【自由回答形式：数値】



【図3】

◆夫婦の預貯金の残高の平均





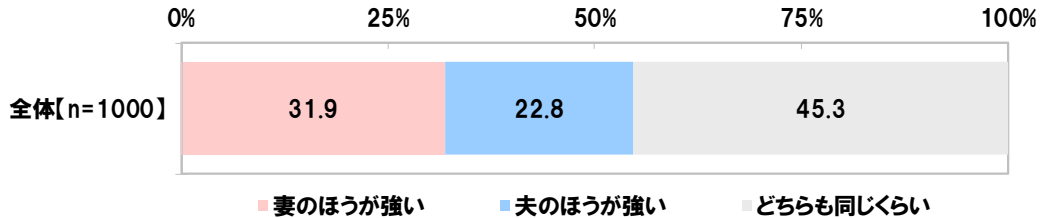
◆おこづかい額の決定権「妻のほうが強い」32%、「夫のほうが強い」23%

◆おこづかい額の平均は 30,831 円/月、昨年調査から 2,395 円減少

全回答者(1,000名)に、おこづかい額の決定権はどちらが強いと聞いたところ、「妻のほうが強い」は 31.9%、「夫のほうが強い」は 22.8%、「どちらも同じくらい」は 45.3%となりました。【図 4】

[図 4]

◆おこづかい額の決定権はどちらが強いか [単一回答形式]

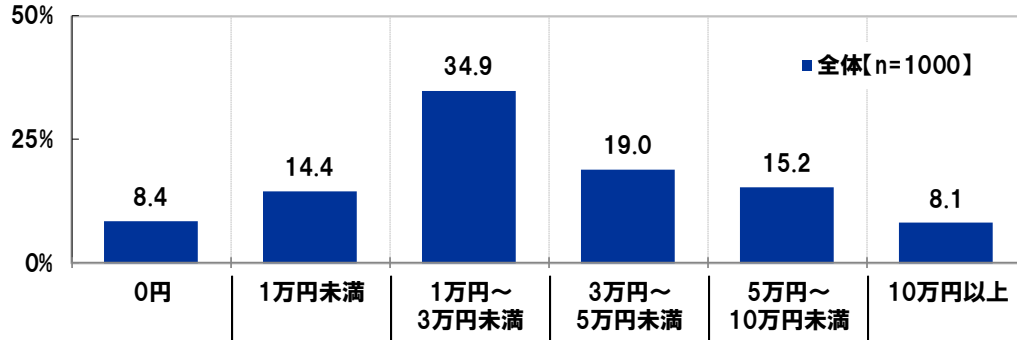


毎月のおこづかい額(=ひと月に自由に使えるお金)はどのくらいか聞いたところ、「1万円～3万円未満」(34.9%)に多くの回答が集まり、平均は 30,831 円となりました。

昨年の調査結果と比較すると、毎月のおこづかい額の平均は、2022年 33,226円→2023年 30,831円と、2,395円減少しました。物価上昇による節約意識の高まりによって、おこづかいに回す金額が減少したと推察されます。男女・年代別にみると、毎月のおこづかい額の平均は、60代以上男性では 12,225円減少(2022年 46,805円→2023年 34,580円)、60代以上女性では 8,060円減少(2022年 36,660円→2023年 28,600円)と、他の年代と比べて減少幅が大きくなりました。【図 5】【図 6】

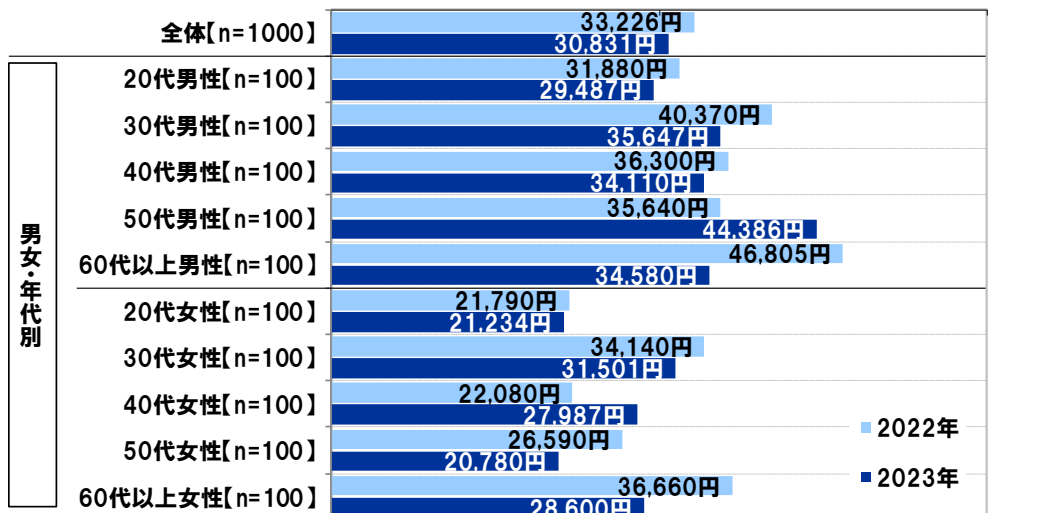
[図 5]

◆毎月のおこづかい額 [自由回答形式:数値]



[図 6]

◆毎月のおこづかい額の平均

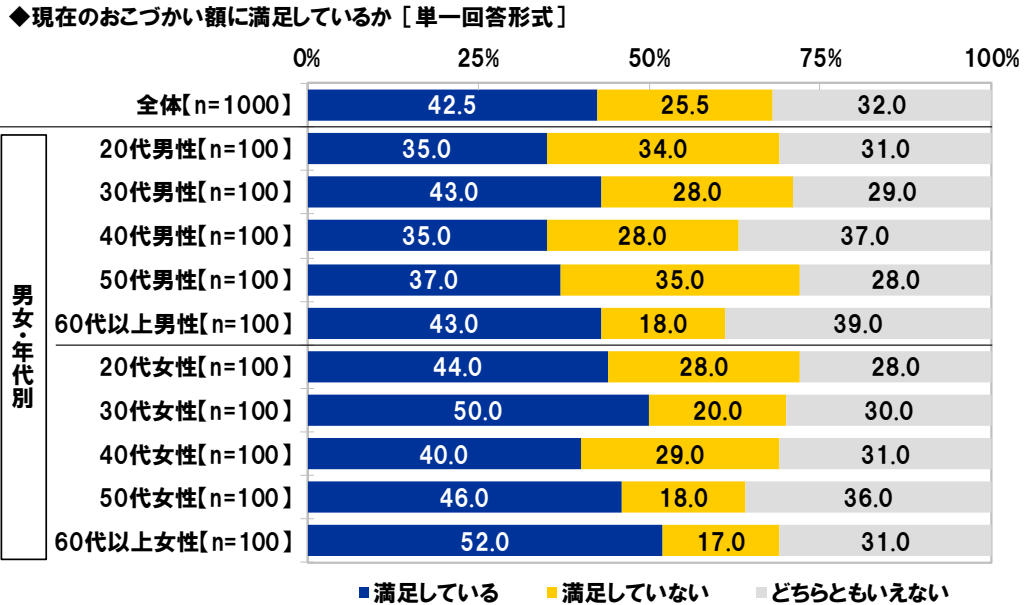


◆「毎月のおこづかい額に満足している」43%、60代以上女性では52%

全回答者(1,000名)に、現在のおこづかい額に満足しているか聞いたところ、「満足している」は42.5%、「満足していない」は25.5%、「どちらともいえない」は32.0%となりました。

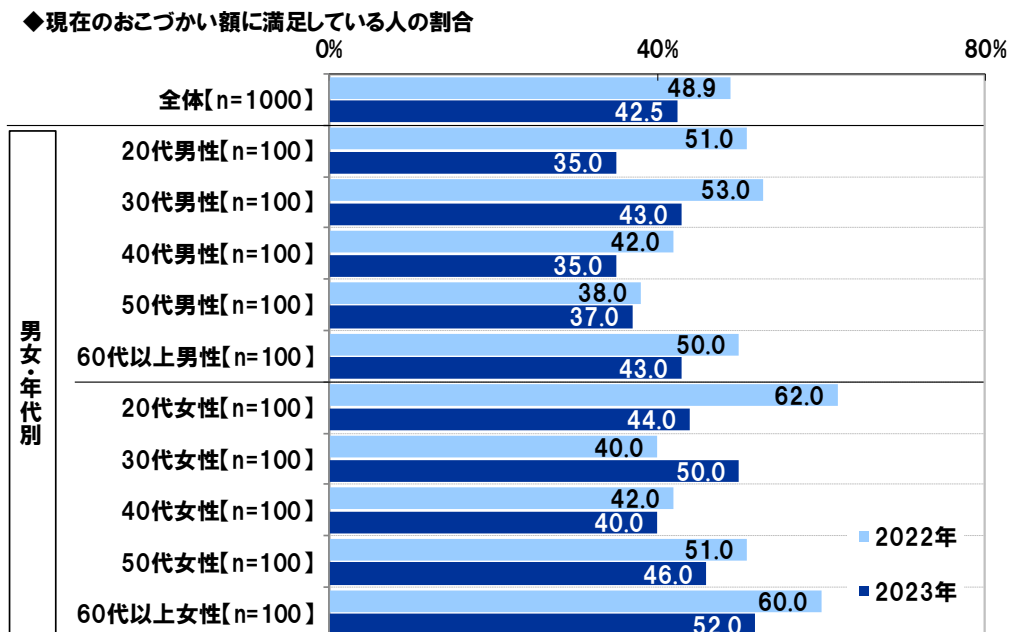
男女・年代別にみると、現在のおこづかい額に満足している人の割合は、男女とも60代以上(60代以上男性43.0%、60代以上女性52.0%)と30代(30代男性43.0%、30代女性50.0%)で高くなりました。[図7]

[図7]



昨年の調査結果と比較すると、現在のおこづかい額に満足している人の割合は、男女とも20代で下降幅が大きく、20代男性では16.0ポイントの下降(2022年51.0%→2023年35.0%)、20代女性では18.0ポイントの下降(2022年62.0%→2023年44.0%)となりました。新型コロナの5類移行後、若年層には、レジャーや友人との交流に使えるお金が足りないと感じる人が増えているのではないのでしょうか。[図8]

[図8]



◆「へそくりをしている」夫の 45%、妻の 48%

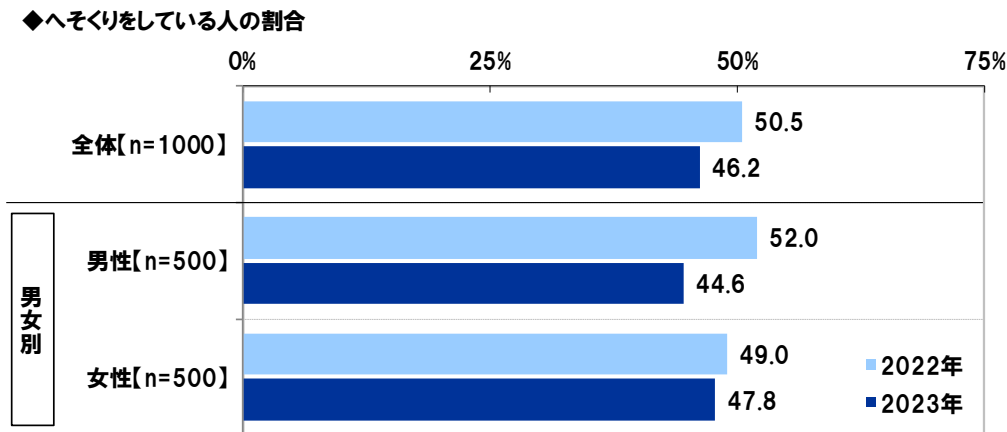
◆へそくり額の平均は夫 152 万円、妻 309 万円、妻では昨年調査から 76 万円の大増

パートナーに内緒で“へそくり”をしている人はどのくらいいるのでしょうか。

全回答者(1,000 名)に、パートナー(夫・妻)に隠して蓄えているお金(へそくり)について聞いたところ、へそくりをしている人の割合は全体で 46.2%となり、男女別にみると、男性 44.6%、女性 47.8%でした。

昨年の調査結果と比較すると、へそくりをしている人の割合は、2022 年 50.5%→2023 年 46.2%と 4.3 ポイント下降しました。男女別にみると、男性では 7.4 ポイントの下降(2022 年 52.0%→2023 年 44.6%)となりました。【図 9】

[図 9]

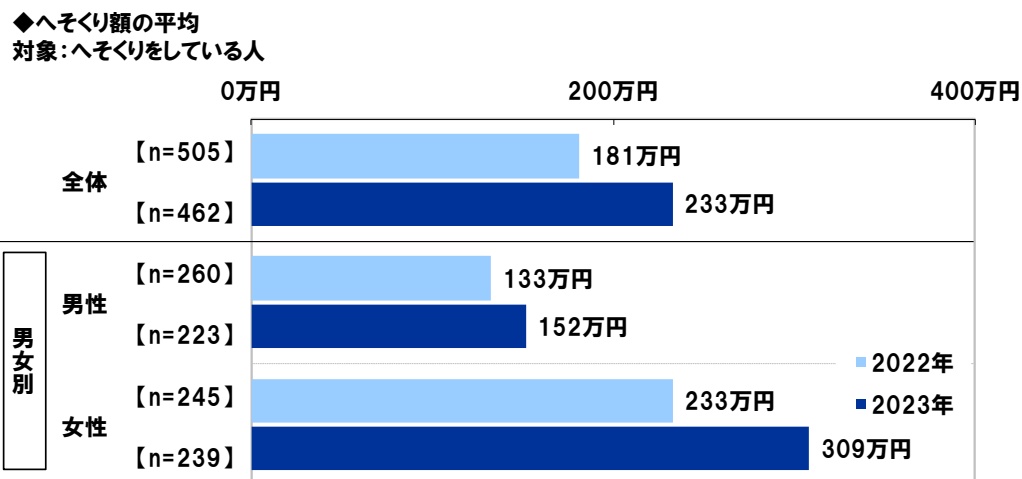


へそくりをしている人(462 名)に、へそくり額を聞いたところ、平均は 233 万円となりました。

男女別にみると、へそくり額の平均は男性 152 万円、女性 309 万円でした。

昨年の調査結果と比較すると、へそくり額の平均は、全体では 2022 年 181 万円→2023 年 233 万円と、52 万円増加しました。男女別にみると、女性では 76 万円の大増(2022 年 233 万円→2023 年 309 万円)となりました。値上げラッシュで経済的な不安が高まるなか、将来リスクに備えるためにへそくりを増やした女性が多いのではないのでしょうか。【図 10】

[図 10]





◆「夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている」73%

◆夫婦の老後に備えるために確保できている金額 平均 62,507 円/月、昨年調査から 12,594 円の大幅増加

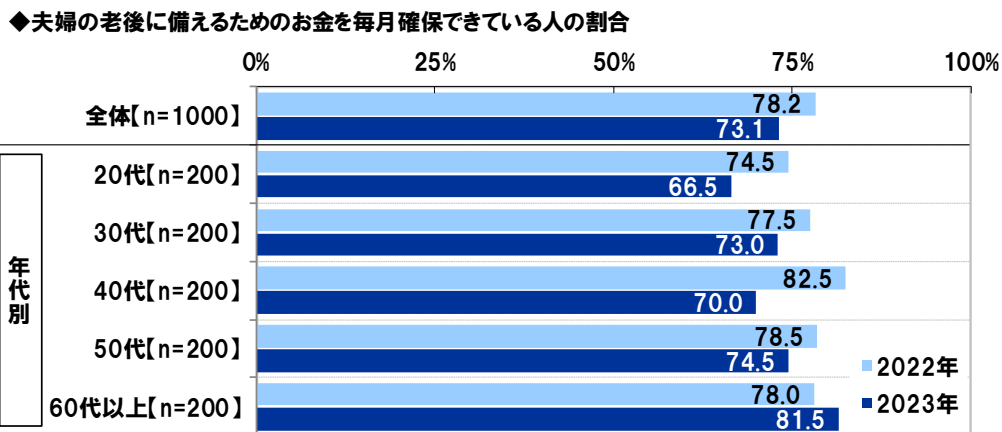
夫婦の老後資金の準備状況について質問しました。

全回答者(1,000名)に、夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できているか聞いたところ、確保できている人の割合は73.1%となりました。

昨年の調査結果と比較すると、毎月確保できている人の割合は、2022年78.2%→2023年73.1%と、5.1ポイント下降しました。物価高騰により家計負担が増大し、老後資金を貯める余裕がなくなったケースがあるのではないのでしょうか。

年代別にみると、40代では2022年82.5%→2023年70.0%と12.5ポイント下降しました。[図11]

[図11]



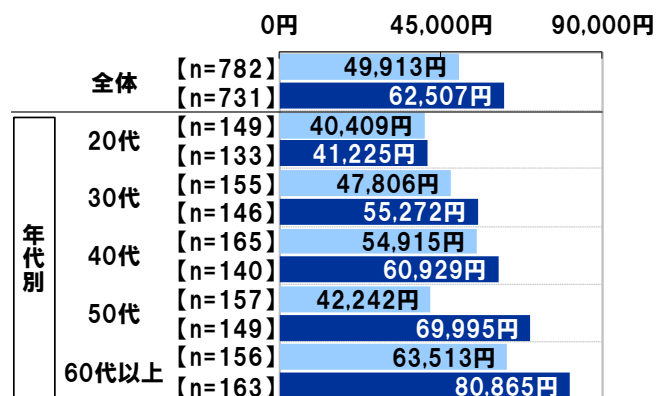
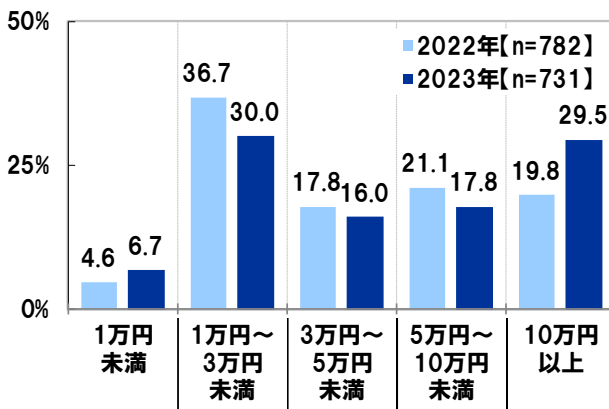
夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている人(731名)に、夫婦の老後の備えとしてひと月あたりにいくらか確保できているか聞いたところ、「1万円～3万円未満」(30.0%)や「10万円以上」(29.5%)に回答が集まり、平均は62,507円でした。

昨年の調査結果と比較すると、「10万円以上」は9.7ポイント上昇(2022年19.8%→2023年29.5%)しました。また、ひと月あたりに確保できている金額の平均は12,594円の大幅増加(2022年49,913円→2023年62,507円)となりました。年代別にみると、50代では27,753円の増加(2022年42,242円→2023年69,995円)、60代以上では17,352円の増加(2022年63,513円→2023年80,865円)と、他の年代と比べて増加幅が大きくなりました。他方、毎月確保できている人の割合は昨年から下降しており、老後資金の準備状況における格差が広がっていることが推察されます。[図12]

[図12]

◆夫婦の老後の備えとしてひと月あたりに確保できている金額
[自由回答形式:数値]
対象:夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている人

◆夫婦の老後の備えとしてひと月あたりに確保できている金額の平均
対象:夫婦の老後に備えるためのお金を毎月確保できている人



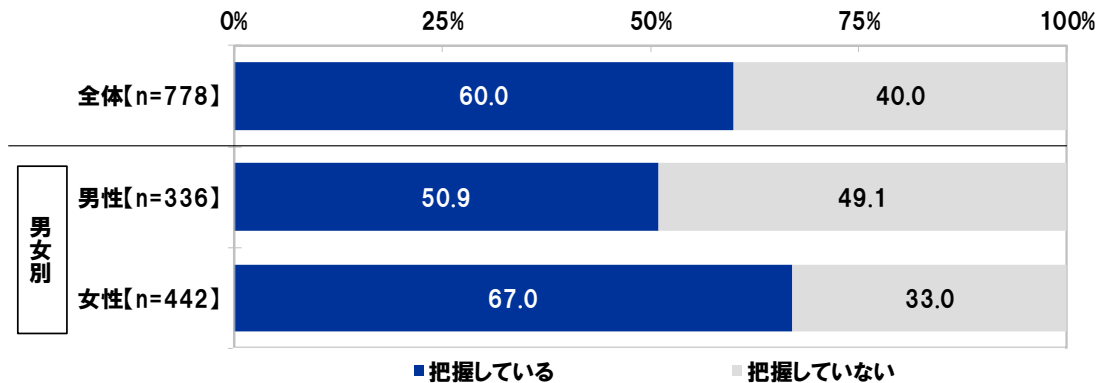
◆「妻の給料を把握していない」夫の 49%、「妻の娯楽費・交際費を把握していない」夫の 69%

配偶者が働いている人(778 名)に、配偶者の給料を把握しているか聞いたところ、「把握している」は 60.0%、「把握していない」は 40.0%となりました。

男女別にみると、「把握していない」は男性では 49.1%と、女性(33.0%)と比べて 16.1 ポイント高くなりました。夫の半数近くが、妻の給料を知らないという実状が明らかになりました。【図 13】

[図 13]

◆配偶者の給料を把握しているか [単一回答形式]
対象: 配偶者が働いている人

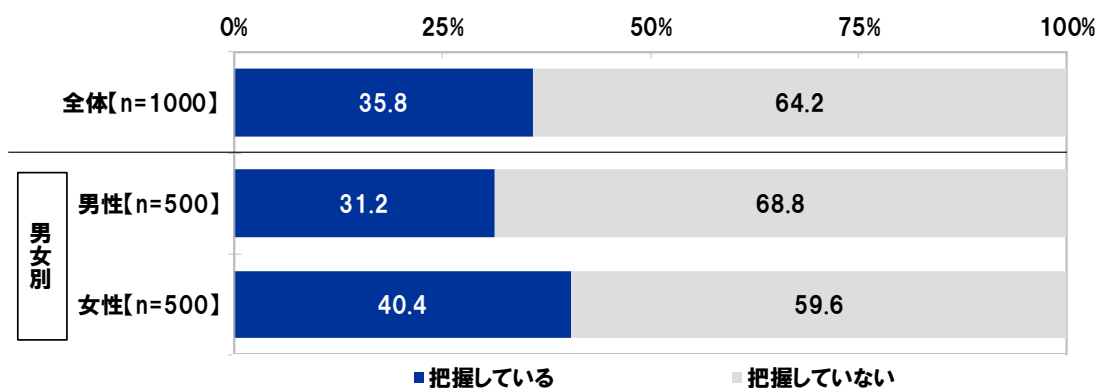


全回答者(1,000 名)に、配偶者の娯楽費・交際費を把握しているか聞いたところ、「把握している」は 35.8%、「把握していない」は 64.2%となりました。

男女別にみると、「把握していない」は男性では 68.8%と、女性(59.6%)と比べて 9.2 ポイント高くなりました。【図 14】

[図 14]

◆配偶者の娯楽費・交際費を把握しているか [単一回答形式]



◆「お金関連で配偶者に不満を持っている」51%、40代女性では64%

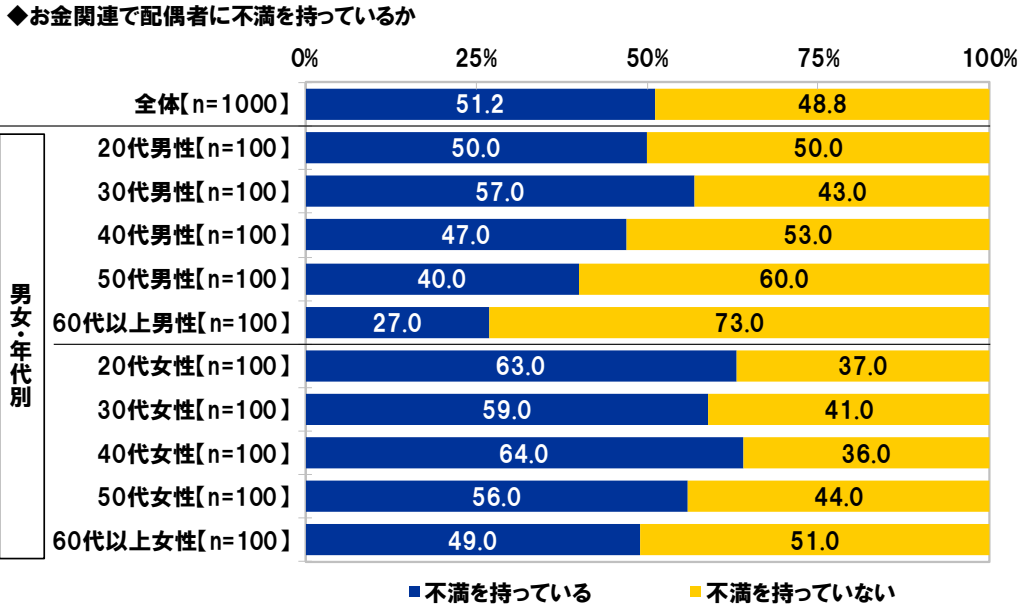
◆お金関連の配偶者への不満

TOP5は「無駄遣いが多い」「節約しない」「無計画にお金を使う」「収入が少ない」「貯蓄に協力しない」

全回答者(1,000名)に、お金関連で配偶者に不満を持っているか聞いたところ、「不満を持っている」は51.2%、「不満を持っていない」は48.8%でした。

男女・年代別にみると、「不満を持っている」の割合は、すべての年代で男性より女性のほうが高くなり、40代女性(64.0%)が最も高くなりました。また、60代以上では男性27.0%、女性49.0%と、22.0ポイント差となりました。【図15】

【図15】

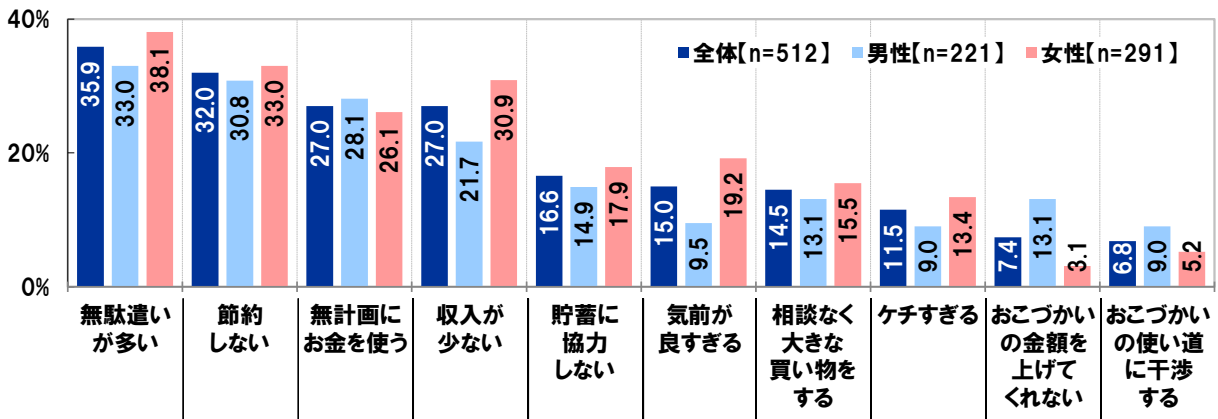


お金関連で配偶者に不満を持っている人(512名)に、お金関連で配偶者にどのような不満を持っているか聞いたところ、「無駄遣いが多い」(35.9%)が最も高くなり、次いで、「節約しない」(32.0%)、「無計画にお金を使う」「収入が少ない」(いずれも27.0%)、「貯蓄に協力しない」(16.6%)となりました。値上げラッシュで家計負担が増大するなか、パートナーの出費に関して不満を抱えている人が多いようです。

男女別にみると、「気前が良すぎる」(男性9.5%、女性19.2%)では男性と比べて女性のほうが9.7ポイント高くなりました。また、「おこづかいの金額を上げてくれない」(男性13.1%、女性3.1%)では女性と比べて男性のほうが10.0ポイント高くなりました。【図16】

【図16】

◆お金関連で配偶者にどのような不満を持っているか【複数回答形式】※全体の上位10位までを抜粋
対象：お金関連で配偶者に不満を持っている人

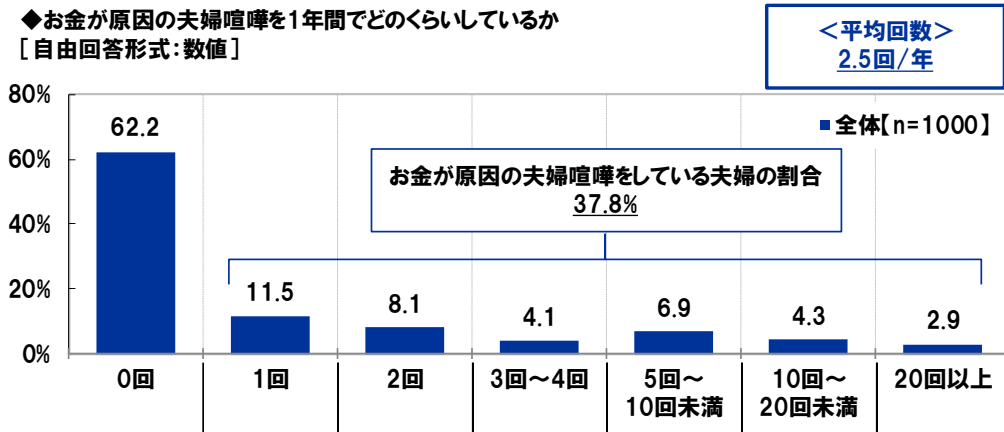


- ◆「お金が原因で年1回以上夫婦喧嘩をしている」38%、お金が原因の夫婦喧嘩の回数は平均2.5回/年
- ◆「お金が原因で離婚危機を迎えたことがある」25%、お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦では55%

お金の問題によって、夫婦関係に亀裂が入ることはあるのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、お金が原因の夫婦喧嘩を1年間でどのくらいしているか聞いたところ、「0回」が62.2%、『お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦の割合』(1回以上と回答した人の割合)は37.8%でした。お金が原因の夫婦喧嘩の回数は平均2.5回/年となりました。【図17】

[図17]

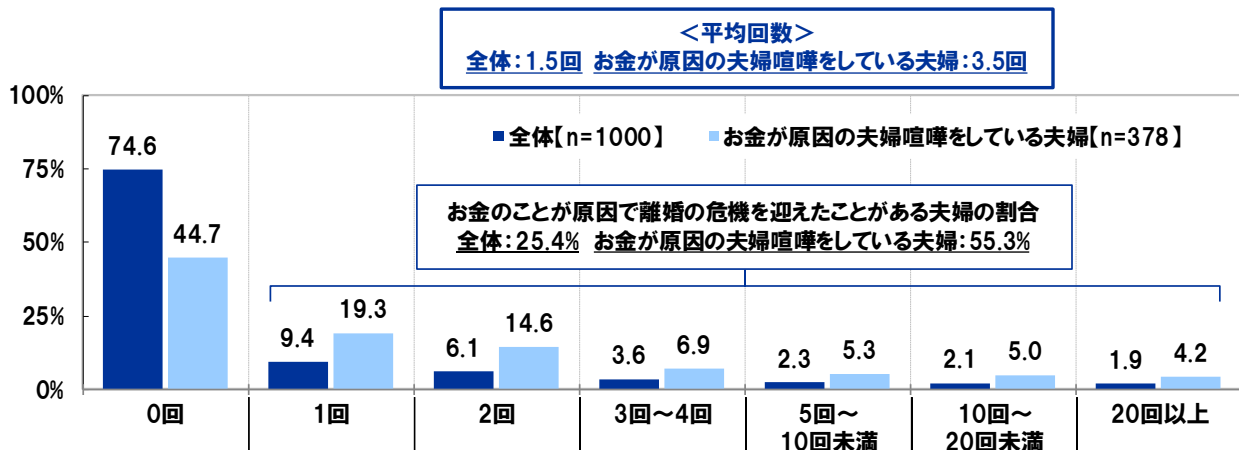


また、お金のことが原因で離婚の危機をこれまでに何回くらい迎えたか聞いたところ、「0回」は74.6%、『お金のことが原因で離婚の危機を迎えたことがある夫婦の割合』(1回以上と回答した人の割合)は25.4%となりました。お金のことが原因で離婚の危機を迎えた回数は平均1.5回/年でした。

お金が原因の夫婦喧嘩をしている夫婦(378組)についてみると、『お金のことが原因で離婚の危機を迎えたことがある夫婦の割合』は55.3%となりました。お金が原因の喧嘩がエスカレートすると、夫婦継続の危機に陥るほど関係が悪化してしまうリスクがあるようです。【図18】

[図18]

- ◆お金のことが原因で離婚の危機をこれまでに何回くらい迎えたか [自由回答形式:数値]



▼今年の社会情勢と夫婦のマネー事情

◆「夫婦の家計状況が昨年より悪くなった」27%、50代では32%

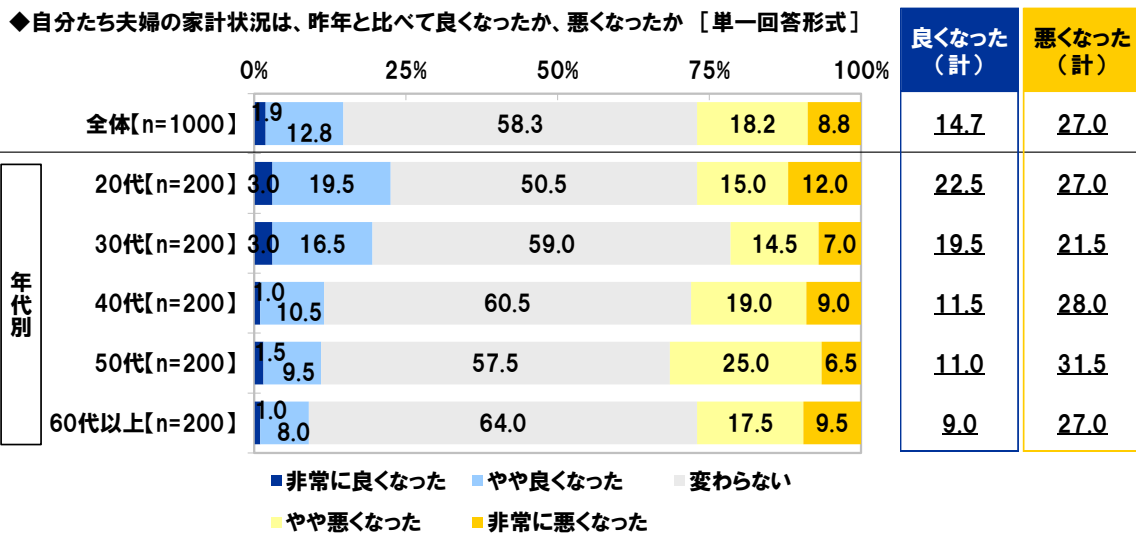
◆「夫婦の老後資金の準備状況が昨年より悪くなった」21%、40代と60代以上では25%

今年一年の夫婦の家計状況や老後資金の準備状況について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦の家計状況は、昨年と比べて良くなったか、悪くなったか聞いたところ、「非常に良くなった」が1.9%、「やや良くなった」が12.8%で、合計した『良くなった(計)』は14.7%、「非常に悪くなった」が8.8%、「やや悪くなった」が18.2%で、合計した『悪くなった(計)』は27.0%となりました。

年代別にみると、『悪くなった(計)』と回答した人の割合は、50代(31.5%)が最も高くなりました。[図19]

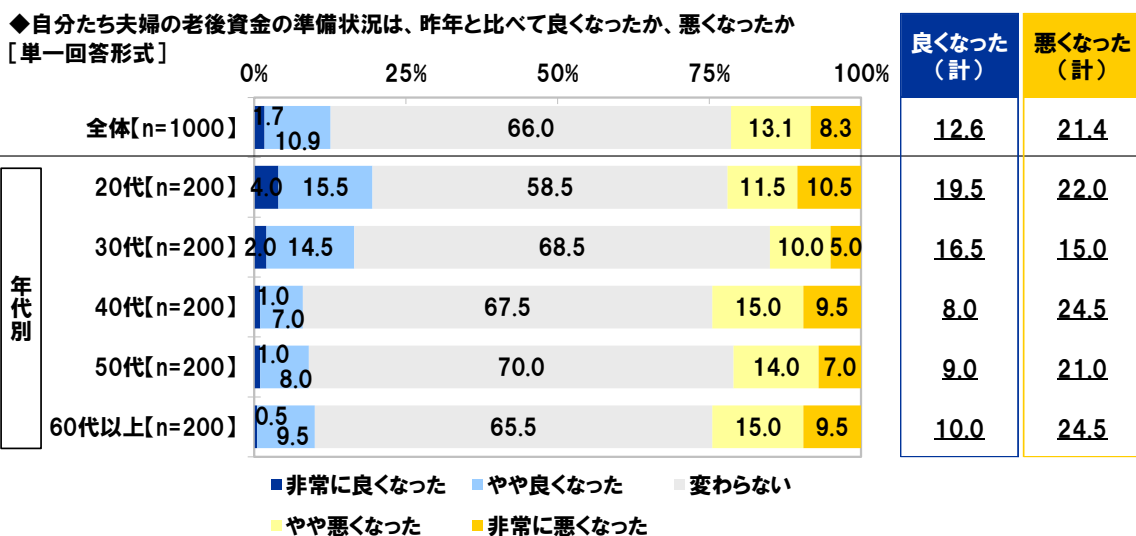
[図19]



自分たち夫婦の老後資金の準備状況は、昨年と比べて良くなったか、悪くなったか聞いたところ、『良くなった(計)』は12.6%、『悪くなった(計)』は21.4%となりました。

年代別にみると、『悪くなった(計)』と回答した人の割合は、40代と60代以上(いずれも24.5%)が最も高くなりました。[図20]

[図20]





◆夫婦の家計状況が昨年と比べて良くなった理由

「家計を見直した」「投資信託やNISAを始めた」「少しずつ給与が上がっている」

◆夫婦の家計状況が昨年と比べて悪くなった理由

「外出が増えて支出が増えた」「日常に使う食品やガソリンなどが値上がりした」

夫婦の家計状況が昨年と比べて良くなった人(147名)に、夫婦の家計状況が良くなった理由を聞いたところ「交際費が減ったから(30代女性)」、「支出を減らしたから(30代男性)」といった支出の減少に関する回答や、「少しずつ給与が上がっているから(30代女性)」、「コロナが明け業績が良くなったから(20代男性)」といった収入の増加に関する回答が挙げられました。また、「家計を見直したから(20代男性)」、「必要な物は何か考えて買っているから(20代女性)」といった節約・家計の見直しに関する回答や、「貯金しているから(20代女性)」、「投資信託やNISAを始めたから(20代女性)」といった貯蓄・投資に関する回答が挙げられ、家計状況の改善のために消費行動を見直したり、積極的に資産形成を行ったりしたケースがあるようです。

夫婦の家計状況が昨年と比べて悪くなった人(270名)に、夫婦の家計状況が悪くなった理由を聞いたところ、「仕事が激減しているから(40代男性)」、「コロナで給与が下がったから(50代女性)」といった収入の減少に関する回答や、「子どもの進学等で出費が増えたから(40代女性)」、「外出が増えて支出が増えたから(50代女性)」といった支出の増加に関する回答が挙げられました。また、「日常に使う食品やガソリンなどが値上がりしたから(40代女性)」、「物価が上がっているのに収入が変わらないから(50代男性)」といった物価の上昇に関する回答が挙げられ、物価高が家計に大きなダメージを与えていることがうかがえる結果となりました。【図21】

[図21]

◆夫婦の家計状況が昨年と比べて良くなった理由 [自由回答形式]
対象:夫婦の家計状況が昨年と比べて良くなった人
※回答を抜粋して表示

全体[n=147]

【支出の減少】

- 交際費が減ったから(30代女性)
- 支出を減らしたから(30代男性)
- 家のローンが減ってきたから(60代女性)

【収入の増加】

- 夫婦で共働きするようになったから(60代女性)
- 少しずつ給与が上がっているから(30代女性)
- コロナが明け業績が良くなったから(20代男性)

【節約・家計の見直し】

- 夫が弁当を持って行くようになったから(20代女性)
- 家計を見直したから(20代男性)
- 必要な物は何か考えて買っているから(20代女性)

【貯蓄・投資】

- 貯金しているから(20代女性)
- 毎年、積み立て投資をしているから(50代男性)
- 投資信託やNISAを始めたから(20代女性)

◆夫婦の家計状況が昨年と比べて悪くなった理由 [自由回答形式]
対象:夫婦の家計状況が昨年と比べて悪くなった人
※回答を抜粋して表示

全体[n=270]

【収入の減少】

- 仕事が激減しているから(40代男性)
- ボーナスが減ったから(40代男性)
- コロナで給与が下がったから(50代女性)
- 会社を解雇されたから(40代女性)
- 年金生活になったから(60代男性)

【支出の増加】

- 自分が使いすぎたから(20代男性)
- 子どもの進学等で出費が増えたから(40代女性)
- 外出が増えて支出が増えたから(50代女性)

【物価の上昇】

- 日常に使う食品やガソリンなどが値上がりしたから(40代女性)
- 物価が上がっているのに収入が変わらないから(50代男性)

【貯蓄・節約】

- 貯蓄、節約意識がないから(40代男性)
- 貯金が増えないから(20代女性)

◆夫婦の“今年の家計”を表す漢字「苦」がダントツ、選んだ理由「給料は上がらず物価高で苦しいから」

全回答者(1,000名)に、夫婦の“今年の家計”を表す漢字(1字)を聞いたところ、「苦」(83名)がダントツとなり、2位「貯」(37名)、3位「節」(35名)、4位「金」(34名)、5位「減」(32名)と続きました。

それぞれの回答について理由を聞いたところ、1位の「苦」については「給料は上がらず物価高で苦しいから(50代女性)」、「お金のやりくりで苦労したから(30代男性)」など、物価上昇の影響を受け家計運営に苦労したことがうかがえる回答が挙げられました。2位の「貯」については「これから老後のために貯金をしたいから(60代以上女性)」、「貯蓄を増やしたいから(30代男性)」、3位の「節」については「節約、節制に励んだ年だから(30代男性)」、「節約意識が高まったから(50代女性)」といった回答が挙げられました。家計防衛のために貯蓄や節約を意識して生活していた人が多いのではないのでしょうか。【図22】

昨年の調査結果と比較すると、「貯」は2022年6位→2023年2位と順位が上昇しました。【図23】

[図22]

◆夫婦の「今年の家計」を表す漢字(1字) [自由回答形式]
※上位10位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	苦	83
2位	貯	37
3位	節	35
4位	金	34
5位	減	32
6位	耐	30
7位	厳	25
8位	増	23
	忍	23
10位	楽 / 平 / 無	22

[図23]

◀2022年調査▶

◆夫婦の「今年の家計」を表す漢字(1字) [自由回答形式]
※上位10位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	苦	72
2位	節	54
3位	忍	47
4位	減	38
	耐	38
6位	貯	36
7位	金	35
8位	楽	28
9位	厳	27
10位	無	25

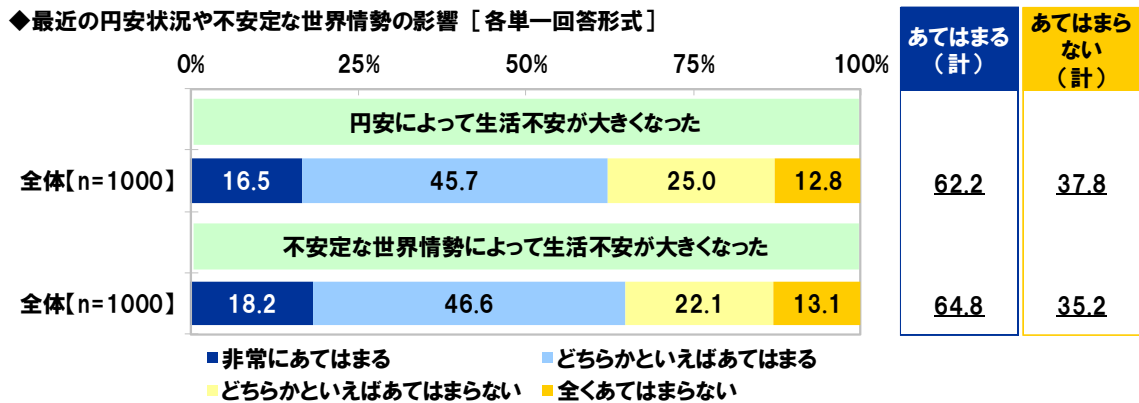
◆「円安によって生活不安が大きくなった」62%、「不安定な世界情勢によって生活不安が大きくなった」65%
 ◆「不安定な世界情勢によって資産運用の重要性を実感した」60%、30代では67%

全回答者(1,000名)に、最近の円安状況や不安定な世界情勢の影響について聞きました。

【円安によって生活不安が大きくなった】では、「非常にあてはまる」が16.5%、「どちらかといえばあてはまる」が45.7%で、合計した『あてはまる(計)』は62.2%、「全くあてはまらない」が12.8%、「どちらかといえばあてはまらない」が25.0%で、合計した『あてはまらない(計)』は37.8%となりました。長引く円安が招く止まらない物価上昇に、多くの人が生活不安を募らせているのではないのでしょうか。

【不安定な世界情勢によって生活不安が大きくなった】では、『あてはまる(計)』は64.8%となりました。収束の兆しが見えないウクライナ紛争や、中東情勢の緊迫化などに不安を抱いている人が多いのではないのでしょうか。【図24】

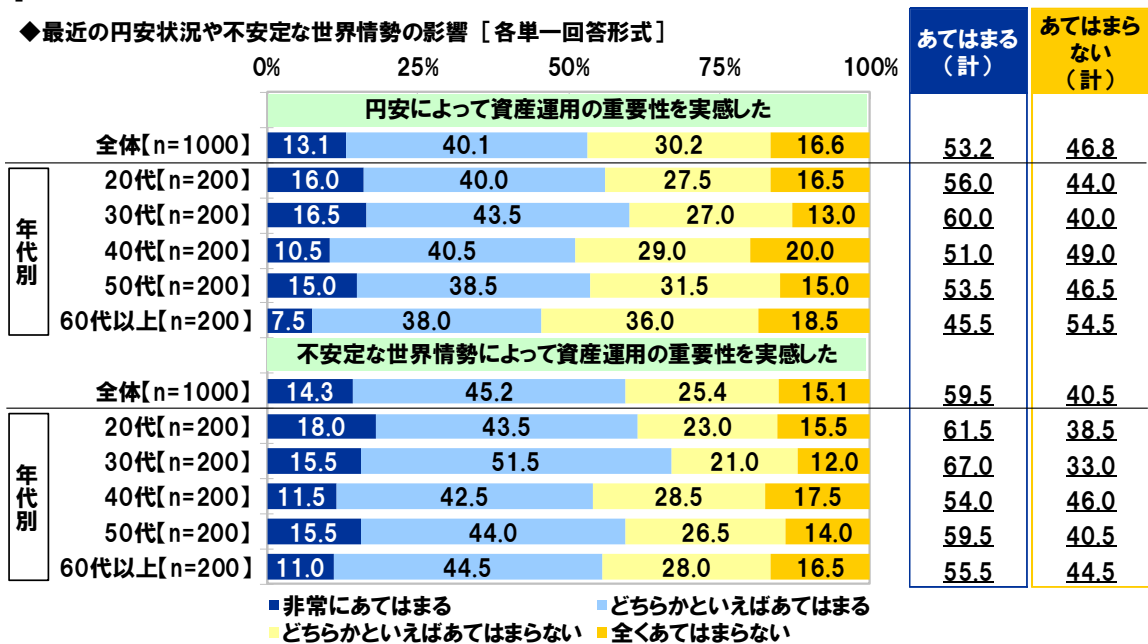
[図24]



【円安によって資産運用の重要性を実感した】では、『あてはまる(計)』は53.2%、【不安定な世界情勢によって資産運用の重要性を実感した】では、『あてはまる(計)』は59.5%となりました。

年代別にみると、円安によって資産運用の重要性を実感した人の割合と、不安定な世界情勢によって資産運用の重要性を実感した人の割合は、いずれも30代(順に60.0%、67.0%)が最も高くなりました。30代には、国内外の情勢を受け、資産運用を行って自身や家族の将来に備えることが大切だと感じた人が多いのではないのでしょうか。【図25】

[図25]



◆「値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まった」45%、昨年調査から4ポイント上昇

全回答者(1,000名)に、最近の値上げラッシュの夫婦関係への影響について聞きました。

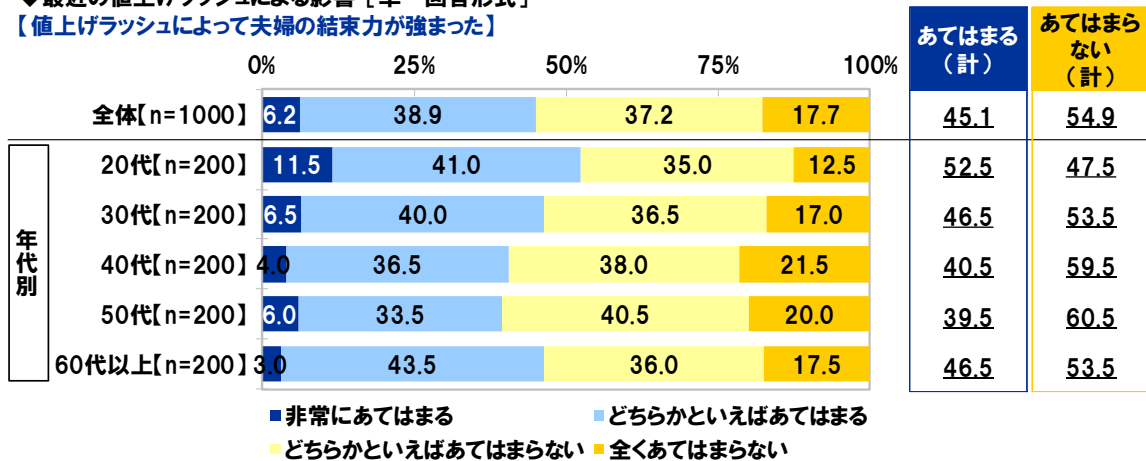
【値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まった】では、『あてはまる(計)』は45.1%となりました。

年代別にみると、『あてはまる(計)』の割合は、20代(52.5%)が最も高く、50代(39.5%)が最も低くなりました。

[図 26]

[図 26]

◆最近の値上げラッシュによる影響 [単一回答形式]
【値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まった】

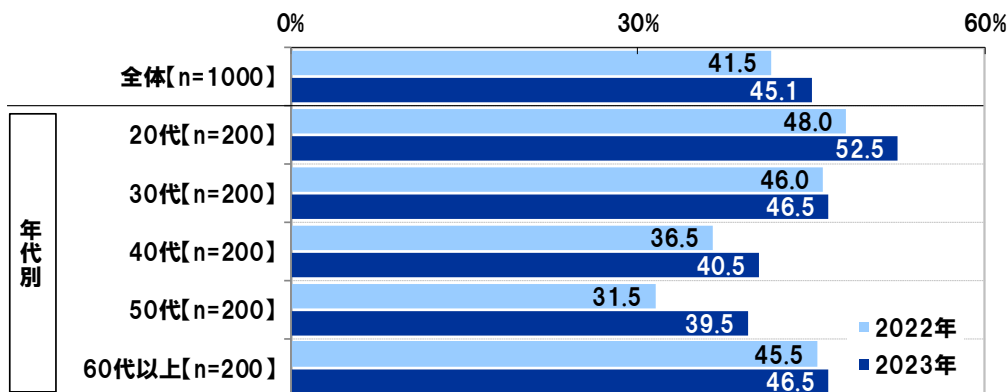


昨年の調査結果と比較すると、値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まったと回答した人の割合は、2022年41.5%→2023年45.1%と、3.6ポイント上昇しました。協力して家計防衛に取り組むことによって、絆を深めた夫婦が増えているのではないのでしょうか。

年代別にみると、値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まったと回答した人の割合は、50代では8.0ポイント上昇(2022年31.5%→2023年39.5%)と、他の年代と比べて上昇幅が大きくなりました。 [図 27]

[図 27]

◆値上げラッシュによって夫婦の結束力が強まったと回答した人の割合





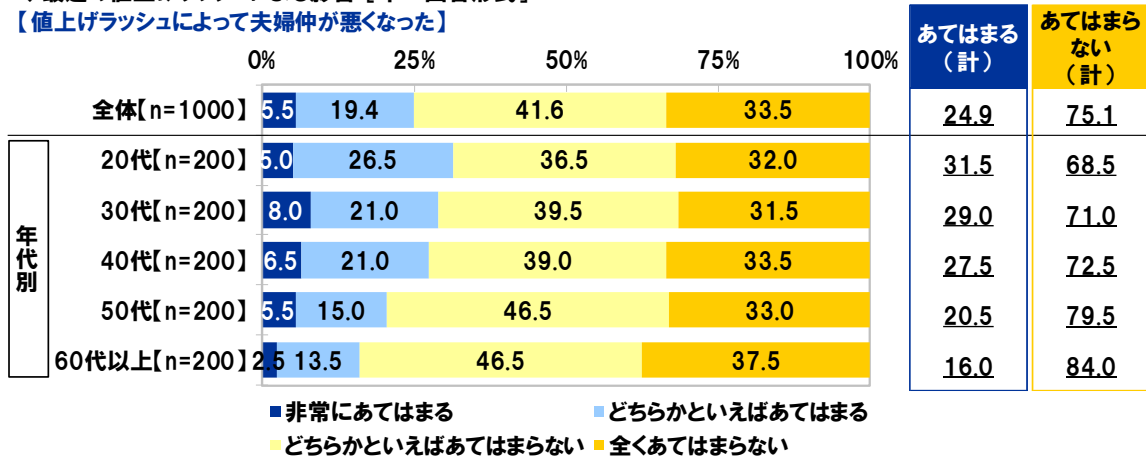
◆「値上げラッシュによって夫婦仲が悪くなった」25%、昨年調査から9ポイント上昇

【値上げラッシュによって夫婦仲が悪くなった】では、『あてはまる(計)』は24.9%となりました。

年代別にみると、『あてはまる(計)』と回答した人の割合は、20代31.5%、30代29.0%、40代27.5%、50代20.5%、60代以上16.0%と、若い年代ほど高くなる傾向がみられました。【図28】

[図28]

◆最近の値上げラッシュによる影響 [単一回答形式]
【値上げラッシュによって夫婦仲が悪くなった】

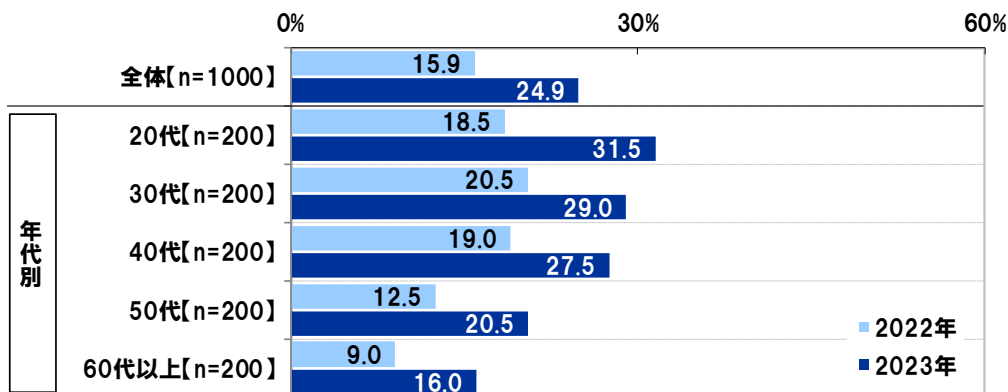


昨年の調査結果と比較すると、値上げラッシュによって夫婦仲が悪くなったと回答した人の割合は、2022年15.9%→2023年24.9%と、9.0ポイント上昇しました。物価高が夫婦関係に悪影響を及ぼすケースが増加していることが明らかになりました。

年代別にみると、値上げラッシュによって夫婦仲が悪くなったと回答した人の割合は、すべての年代で上昇しており、20代では13.0ポイント上昇(2022年18.5%→2023年31.5%)と、他の年代と比べて上昇幅が大きくなりました。【図29】

[図29]

◆値上げラッシュによって夫婦仲が悪くなったと回答した人の割合



▼夫婦の投資事情

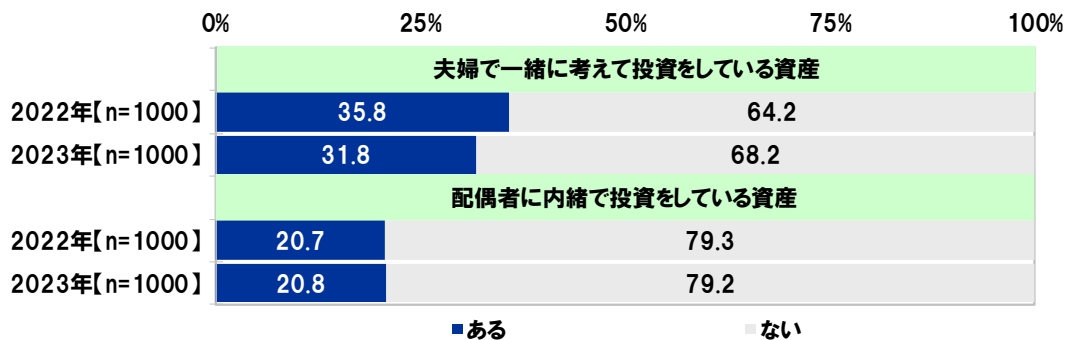
- ◆「夫婦で一緒に考えて投資をしている」32%、「配偶者に内緒で投資をしている」21%
- ◆夫婦で一緒に考えて投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」3位「外国株式」
- ◆配偶者に内緒で投資をしている資産 1位「日本株式」2位「投資信託」3位「外貨」

全回答者(1,000名)に、“夫婦で一緒に考えて投資をしている資産”と“配偶者に内緒で投資をしている資産”の有無を聞いたところ、“夫婦で一緒に考えて投資をしている資産”がある人の割合は31.8%、“配偶者に内緒で投資をしている資産”がある人の割合は20.8%となりました。

昨年の調査結果と比較すると、“夫婦で一緒に考えて投資をしている資産”がある人の割合は、2022年35.8%→2023年31.8%と4.0ポイント下降しました。【図30】

[図30]

◆「夫婦で一緒に考えて投資をしている資産」と「配偶者に内緒で投資をしている資産」の有無

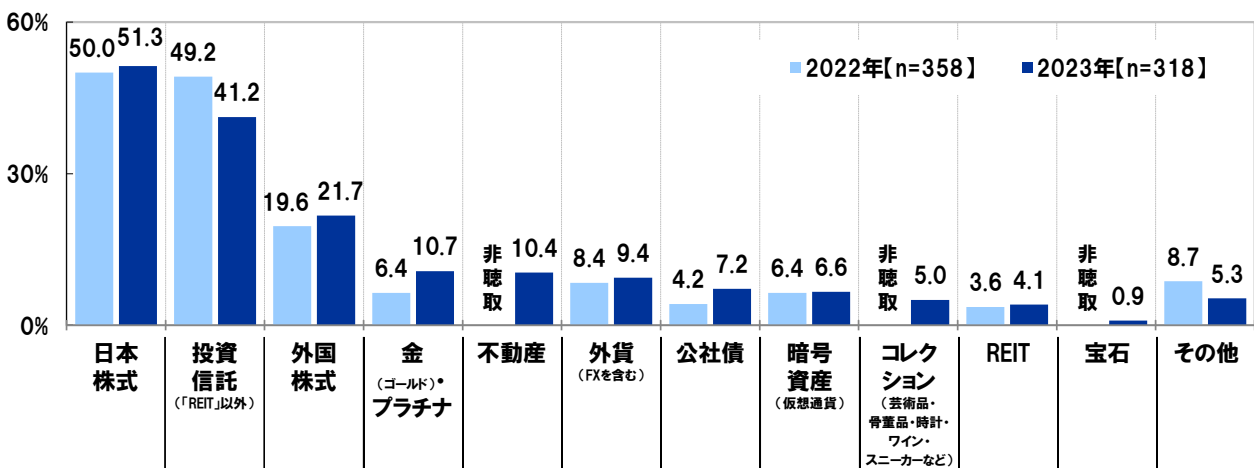


夫婦で一緒に考えて投資をしている人(318名)に、夫婦で一緒に考えて投資をしている資産を聞いたところ、「日本株式」(51.3%)が最も高くなり、「投資信託(「REIT」以外)」(41.2%)、「外国株式」(21.7%)、「金(ゴールド)・プラチナ」(10.7%)、「不動産」(10.4%)が続きました。

昨年の調査結果と比較すると、「金(ゴールド)・プラチナ」は4.3ポイント上昇(2022年6.4%→2023年10.7%)しました。近年価格上昇が続いている金(ゴールド)に、夫婦で投資した人が増えたのではないのでしょうか。【図31】

[図31]

◆夫婦で一緒に考えて投資をしている資産 [複数回答形式] 対象:夫婦で一緒に考えて投資をしている人



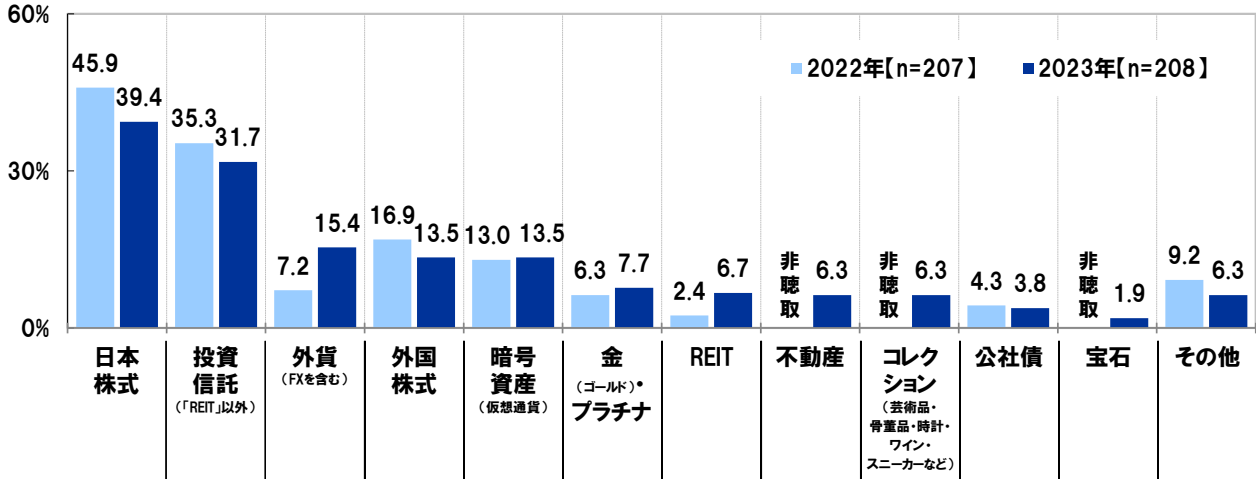


配偶者に内緒で投資をしている人(208名)に、配偶者に内緒で投資をしている資産を聞いたところ、「日本株式」(39.4%)が最も高くなり、「投資信託(「REIT」以外)」(31.7%)、「外貨(FXを含む)」(15.4%)、「外国株式」「暗号資産(仮想通貨)」(いずれも13.5%)が続きました。

昨年の調査結果と比較すると、「外貨(FXを含む)」は8.2ポイント上昇(2022年7.2%→2023年15.4%)しました。[図32]

[図32]

◆配偶者に内緒で投資をしている資産 [複数回答形式] 対象:配偶者に内緒で投資をしている人





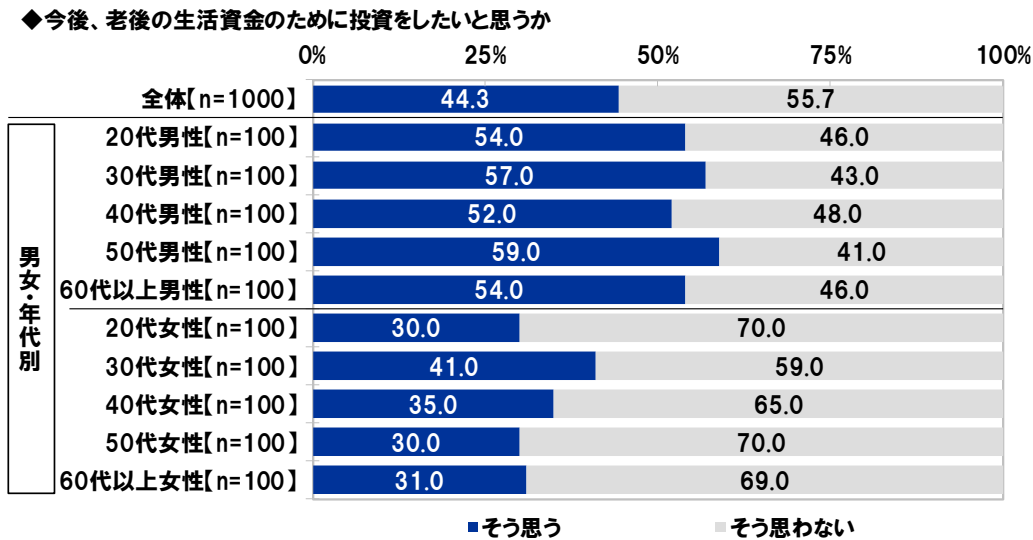
◆「老後の生活資金のために投資をしたい」44%、50代男性では59%

◆老後のために投資したい資産 1位「日本株式」2位「投資信託」3位「外国株式」

全回答者(1,000名)に、今後、老後の生活資金のために投資をしたいと思うか聞いたところ、「そう思う」は44.3%、「そう思わない」は55.7%となりました。

男女・年代別にみると、「そう思う」の割合は、男性では20代54.0%、30代57.0%、40代52.0%、50代59.0%、60代以上54.0%と、すべての年代で半数を超える結果となりました。【図33】

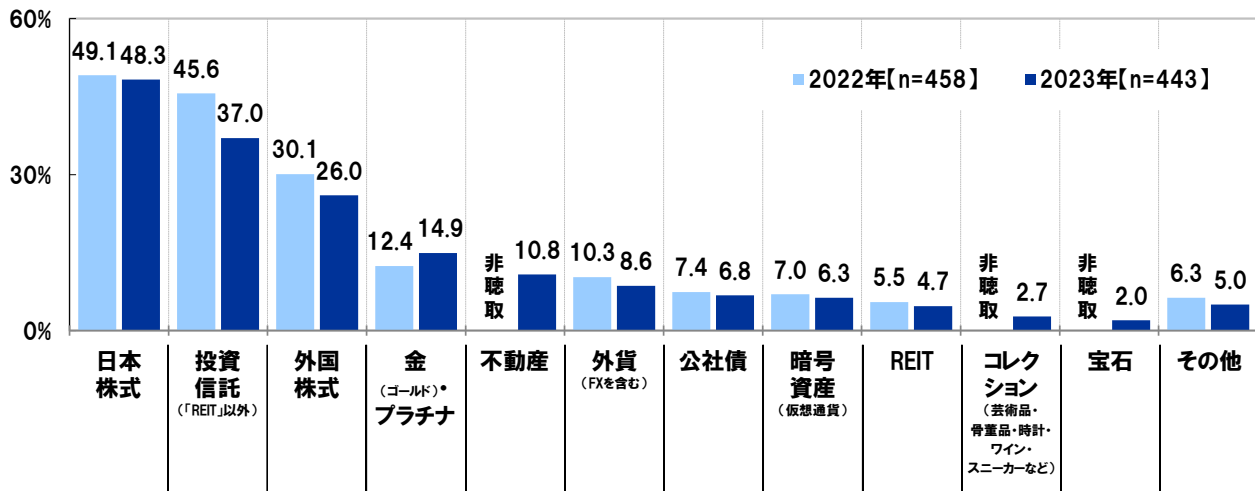
[図33]



今後、老後の生活資金のために投資をしたいと考えている人(443名)に、どのような資産に投資をしたいか聞いたところ、「日本株式」(48.3%)が最も高くなり、「投資信託(「REIT」以外)」(37.0%)、「外国株式」(26.0%)、「金(ゴールド)・プラチナ」(14.9%)、「不動産」(10.8%)が続きました。【図34】

[図34]

◆老後の生活資金のために投資をしたい資産 [複数回答形式]
対象: 今後、老後の生活資金のために投資をしたいと考えている人





◆“新しいNISA”の認知率は60%、50代男性では76%

◆「夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したい」43%、30代では52%

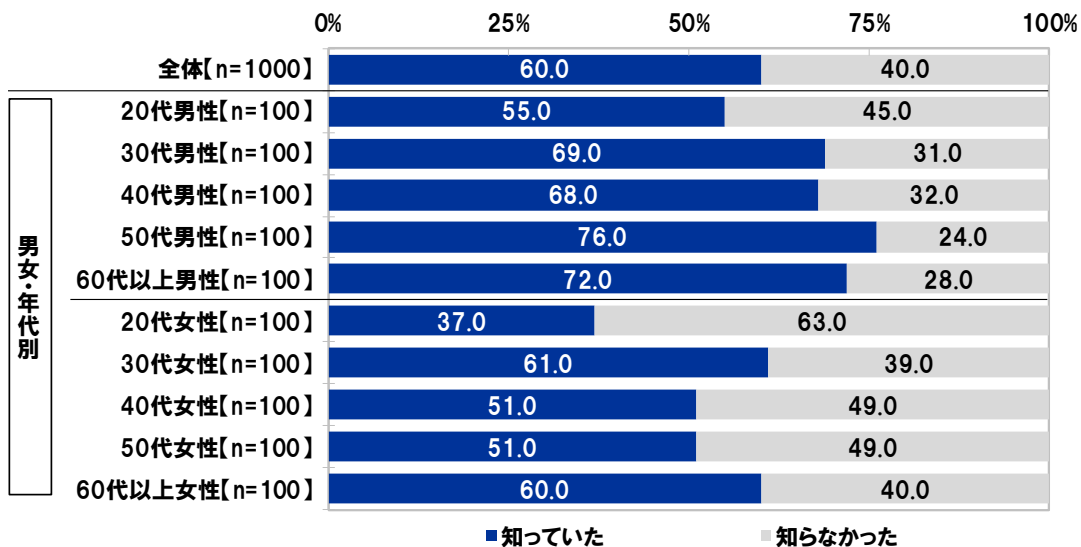
2024年から“新しいNISA”がスタートし、非課税保有期間の無期限化、口座開設期間の恒久化、年間投資枠の拡大、つみたて投資枠と成長投資枠の併用可能化、生涯非課税限度額の設定といった制度改革が行われます。

全回答者(1,000名)に、新しいNISAがスタートすることを知っていたか聞いたところ、「知っていた」は60.0%、「知らなかった」は40.0%となりました。

男女・年代別にみると、「知っていた」と回答した人の割合は、50代男性(76.0%)が最も高くなりました。【図35】

[図35]

◆新しいNISAがスタートすることを知っていたか [単一回答形式]

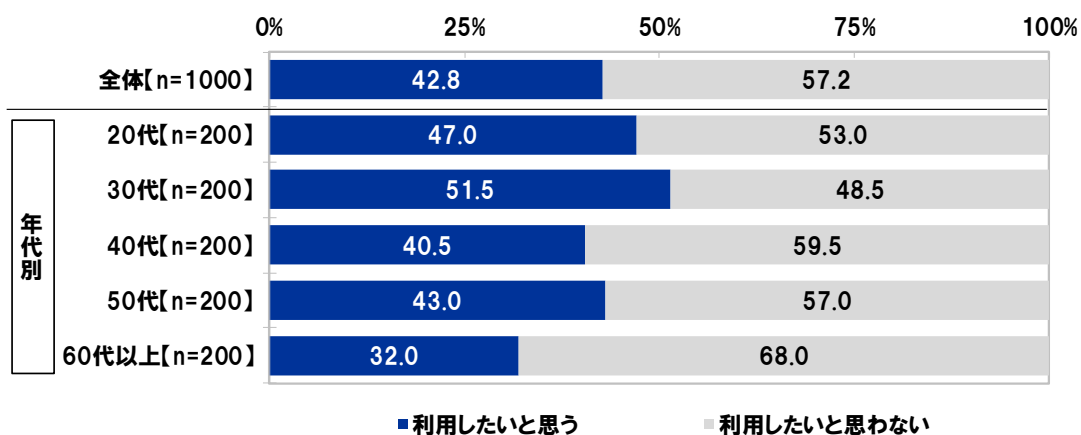


夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したいと思うか聞いたところ、「利用したいと思う」は42.8%、「利用したいと思わない」は57.2%となりました。

年代別にみると、「利用したいと思う」と回答した人の割合は、30代(51.5%)が最も高くなりました。【図36】

[図36]

◆夫婦で一緒に考えて行う投資に新しいNISAを利用したいと思うか [単一回答形式]



▼夫婦仲と夫婦円満投資

◆「夫婦の仲が昨年より良くなった」17%、20代では33%、60代以上では6%

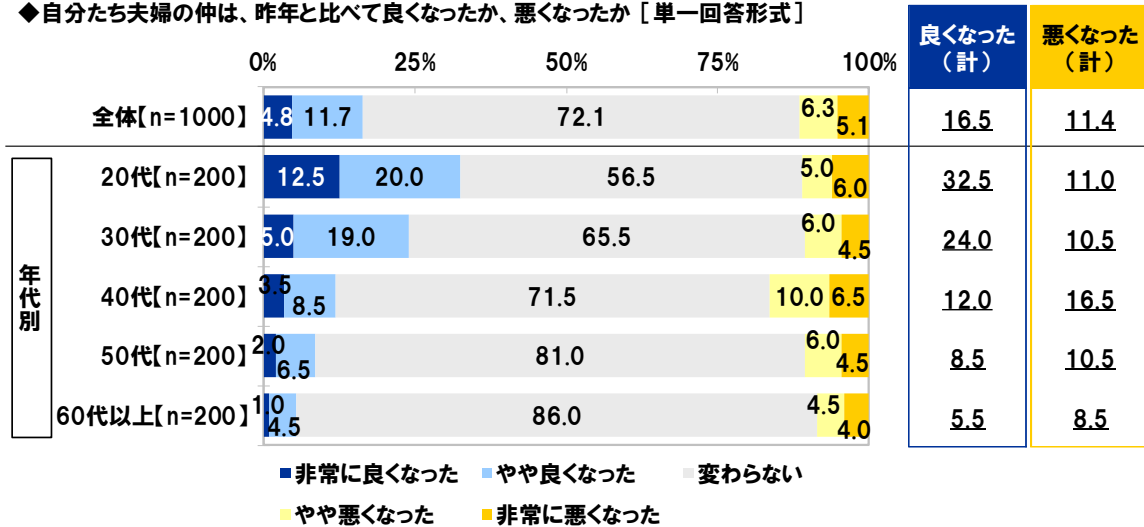
夫婦仲の変化について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦の仲は、昨年と比べて良くなったか、悪くなったか聞いたところ、『良くなった(計)』は16.5%、『悪くなった(計)』は11.4%となりました。

年代別にみると、『良くなった(計)』と回答した人の割合は、若い年代ほど高い傾向がみられ、最も高い20代(32.5%)と最も低い60代以上(5.5%)の間に27.0ポイントの差がみられる結果となりました。【図37】

[図37]

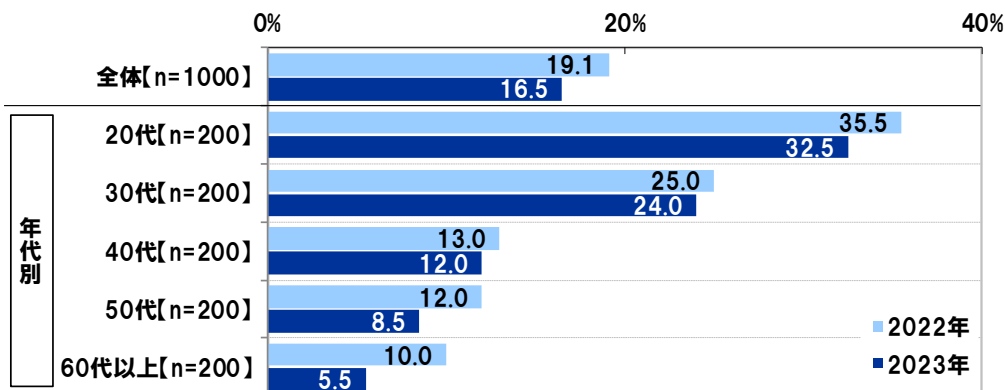
◆自分たち夫婦の仲は、昨年と比べて良くなったか、悪くなったか【単一回答形式】



昨年の調査結果と比較すると、『良くなった(計)』と回答した人の割合は、2022年19.1%→2023年16.5%と、2.6ポイント下降しました。60代以上では4.5ポイントの下降(2022年10.0%→2023年5.5%)となりました。【図38】

[図38]

◆自分たち夫婦の仲が昨年と比べて良くなったと回答した人の割合





◆夫婦円満でいるために行っていること 1位「多少のことは我慢する」2位「話を聞く」、
20代男性では「話を聞く」と「記念日を祝う」、60代以上男性では「互いの健康を気遣う」、
20代・30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」が1位に

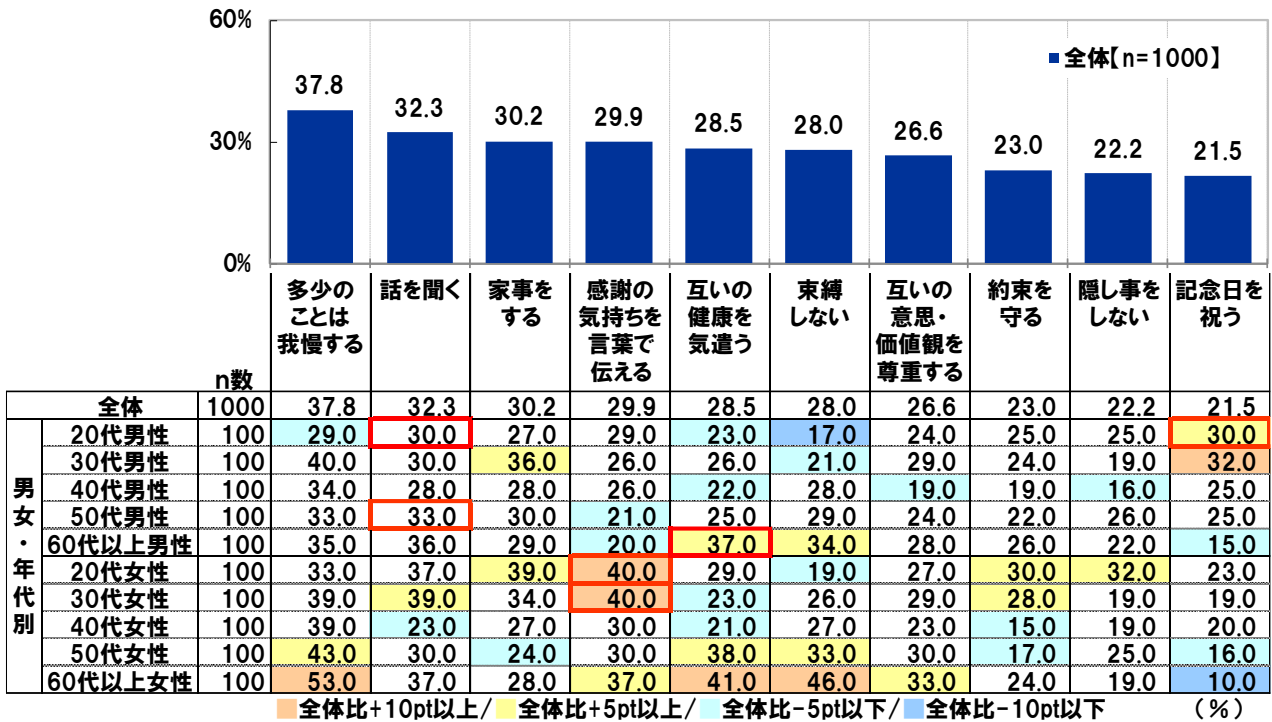
夫婦仲良く毎日を送るために、どのような行動をとっている人が多いのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、夫婦円満でいるために行っていることを聞いたところ、「多少のことは我慢する」(37.8%)が最も高くなりました。些細なことには目をつむり、衝突を避けるよう心がけている人が多いようです。次いで高くなったのは、「話を聞く」(32.3%)、「家事をする」(30.2%)、「感謝の気持ちを言葉で伝える」(29.9%)、「互いの健康を気遣う」(28.5%)でした。

男女・年代別にみると、20代男性では「話を聞く」と「記念日を祝う」(いずれも30.0%)、50代男性では「多少のことは我慢する」と「話を聞く」(いずれも33.0%)、60代以上男性では「互いの健康を気遣う」(37.0%)、20代女性と30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」(いずれも40.0%)が1位でした。[図39]

[図39]

◆夫婦円満でいるために行っていること [複数回答形式] ※上位10位までを抜粋



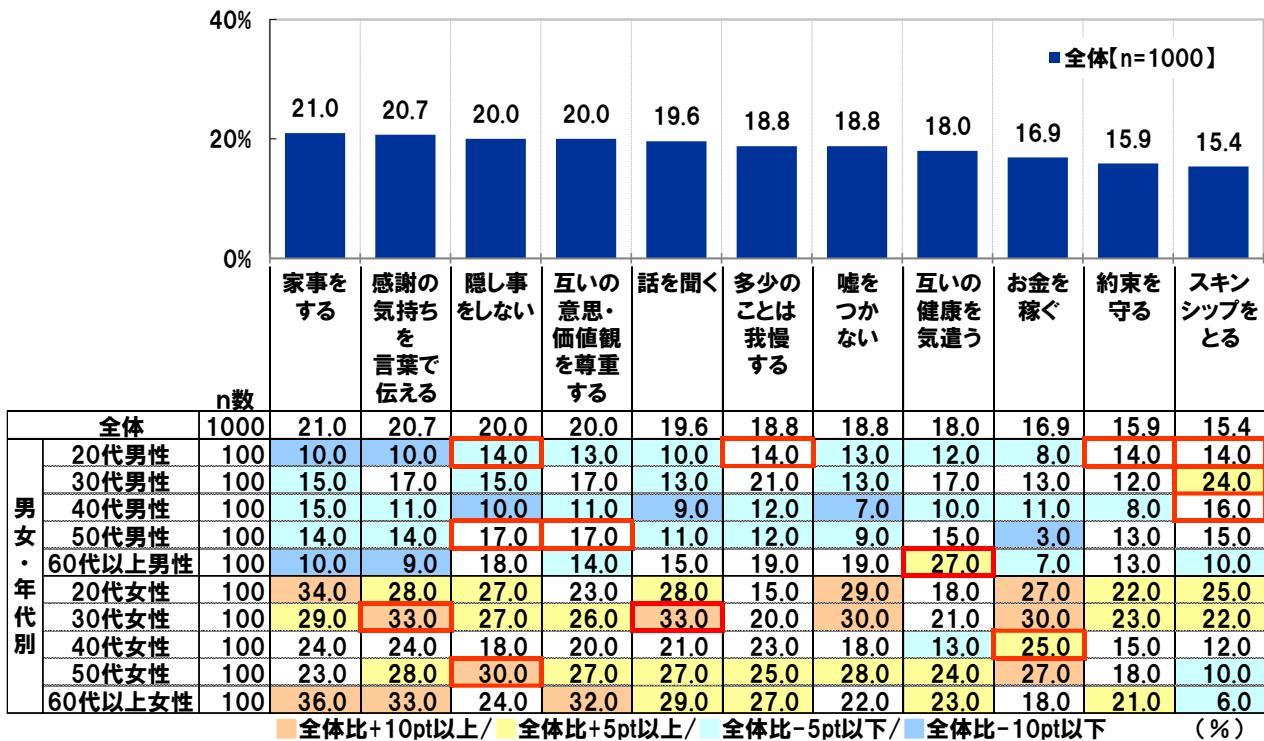
◆夫婦円満であるために配偶者に行ってほしいこと 1位「家事をする」2位「感謝の気持ちを言葉で伝える」、
50代男性では「隠し事をしない」「互いの意思・価値観を尊重する」、
30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」「話を聞く」、40代女性では「お金を稼ぐ」が1位に

次に、全回答者(1,000名)に、夫婦円満であるために配偶者に行ってほしいことを聞いたところ、「家事をする」(21.0%)が最も高くなり、次いで、「感謝の気持ちを言葉で伝える」(20.7%)、「隠し事をしない」「互いの意思・価値観を尊重する」(いずれも20.0%)、「話を聞く」(19.6%)となりました。

男女・年代別にみると、20代男性では、「隠し事をしない」「多少のことは我慢する」「約束を守る」「スキンシップをとる」(いずれも14.0%)、30代男性と40代男性では「スキンシップをとる」(30代男性24.0%、40代男性16.0%)、50代男性では「隠し事をしない」「互いの意思・価値観を尊重する」(いずれも17.0%)、60代以上男性では「互いの健康を気遣う」(27.0%)が1位でした。また、30代女性では「感謝の気持ちを言葉で伝える」「話を聞く」(いずれも33.0%)、40代女性では「お金を稼ぐ」(25.0%)、50代女性では「隠し事をしない」(30.0%)が1位でした。【図40】

[図40]

◆夫婦円満であるために配偶者に行ってほしいこと【複数回答形式】※上位11位までを抜粋





◆夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦 1位「ヒロミさん・松本伊代さん」2位「杉浦太陽さん・辻希美さん」
 ◆夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦 1位「フグ田マスオ・フグ田サザエ」2位「野原ひろし・野原みさえ」

最後に、全回答者(1,000名)に、“夫婦円満”をテーマに、イメージに合う芸能人夫婦やアニメキャラ夫婦について質問しました。

夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦を聞いたところ、1位「ヒロミさん・松本伊代さん」(64名)、2位「杉浦太陽さん・辻希美さん」(46名)、3位「DAIGOさん・北川景子さん」(28名)、4位「庄司智春さん・藤本美貴さん」(25名)、5位「佐々木健介さん・北斗晶さん」(20名)となりました。結婚30周年を迎えたヒロミさん・松本伊代さん夫妻のように、いつまでも夫婦仲良く年を重ねていきたいと思う人が多いのではないのでしょうか。【図41】

[図41]

◆夫婦仲をお手本にしたい芸能人夫婦
 [自由回答形式] ※上位10位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	ヒロミ・松本伊代	64
2位	杉浦太陽・辻希美	46
3位	DAIGO・北川景子	28
4位	庄司智春・藤本美貴	25
5位	佐々木健介・北斗晶	20
6位	反町隆史・松嶋菜々子	16
7位	中尾明慶・仲里依紗	10
8位	唐沢寿明・山口智子	8
9位	中尾彬・池波志乃	6
	柄本佑・安藤サクラ	6
	木村拓哉・工藤静香	6

夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦を聞いたところ、1位「フグ田マスオ・フグ田サザエ(サザエさん)」(96名)、2位「野原ひろし・野原みさえ(クレヨンしんちゃん)」(58名)、3位「ロイド・フォージャー・ヨル・フォージャー(SPY×FAMILY)」(11名)、4位「バカボンのパパ・バカボンのママ(天才バカボン)」(7名)、5位「磯野波平・磯野フネ(サザエさん)」(孫悟空・チチ(ドラゴンボール))(いずれも5名)となりました。明るく朗らかなサザエさんと、優しく家族思いなマスオさんの仲睦まじさをお手本にしたいと思う人が多いのではないのでしょうか。【図42】

[図42]

◆夫婦仲をお手本にしたいアニメキャラ夫婦
 [自由回答形式] ※上位5位までを抜粋

全体[n=1000]

順位	回答	名
1位	フグ田マスオ・フグ田サザエ (サザエさん)	96
2位	野原ひろし・野原みさえ (クレヨンしんちゃん)	58
3位	ロイド・フォージャー・ヨル・フォージャー (SPY×FAMILY)	11
4位	バカボンのパパ・バカボンのママ (天才バカボン)	7
5位	磯野波平・磯野フネ (サザエさん)	5
	孫悟空・チチ (ドラゴンボール)	5



■■ 調査概要 ■■

- ◆調査タイトル : 夫婦のマネー事情と夫婦円満投資に関する調査2023
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする
20歳以上の既婚(配偶者がいる)男女
- ◆調査期間 : 2023年10月12日～10月13日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	100	100	100	100	100	500
女性	100	100	100	100	100	500

- ◆実施機関 : ネットエイジア株式会社

■■ 報道関係の皆様へ ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「スパークス・アセット・マネジメント調べ」と付記のうえ
ご使用いただきますようお願い申し上げます。

■■ 本調査に関するお問合せ窓口 ■■

- 会社名 : スパークス・アセット・マネジメント株式会社
- 所在地 : 東京都港区港南 1-2-70 品川シーズンテラス 6 階
- 会社 HP : <https://www.sparx.co.jp/>
- 担当 : 広報室
- メールアドレス : pr_media@sparxgroup.com
- TEL : 03-6711-9200(代表)
- FAX : 03-6711-9201(代表)